【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

Global Partner/Net VA
グローバルパートナー/Net VA

＊Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

月次運用レポート

2011年2月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン*／アライアンス・バーンスタイン株式会社

米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタインは、業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。
アライアンス・バーンスタイン株式会社は、アライアンス・バーンスタインの日本拠点で、1986年（アライアンス・キャピタル・マネジメント・ジャパン・インク 東京支店の設立）以来、個人投資家や機関投資家の皆様に幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）（*）」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

＊ 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート （2011年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2011年2月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、上昇しました。TOPIX（東証株価指数）は前月末比＋4．53%上昇の951．27ポイントで終了しました。
上旬は、景気回復期待などを受けた外国株式市場の上昇や国内企業業績の改善期待などから上昇し、中旬までは買い優勢の展開が続きました。その後、中東・北アフリカの政情不安に拍車がかかり原油価格が急騰したことで景気への悪影響が懸念されたことや、リスク回避の動きなどから下落したものの、原油価格の上昇が一服すると下旬にかけては下げ止まりました。
業種別（東証33業種）では、株式市場の上昇に伴う含み損益改善期値から「保険業」（前月末比＋11．40%）が最も上昇した一方、原油価格上昇によるコスト増加懸念から「空運業」（同▲1．88%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、好調な企業決算や良好な米経済指標などによる景気回復期待のほか、活発なM＆A動向などが好感され上昇して始まりました。下旬にかけては、中東・北アフリカの政情不安を受けた原油価格の急騰や中国での金融引締めの動きなどを受け、世界的な景気減速に対する懸念から下落しました。NYダウは前月末比＋2．81%上昇の12，226．34ドルで終了しました。
欧州株式市場も、景気回復期待を背景に上昇したものの、中東・北アフリカ情勢の地政学リスクの高まりを受けて伸び悩みました。市場別騰落率は、英FT100が前月末比＋2．24%上昇、仏CAC40が同＋2．62%上昇、独DAXは同＋2．75%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、上旬に金利上昇した後、下旬は低下し、新発10年国債利回りは1．255%となりました（前月末は1．215%）。
上旬は、1日の10年国債入札がやや不調だったことや米国長期金利が上昇したことなどから売り優勢の展開となり、9日には一時1．35%近辺まで金利は上昇しました。しかし下旬にかけては、中東・北アフリカ政情不安など地政学リスクが高まり株価が下落に転じたことや、米国長期金利が低下したことなどを受けて、24日には1．2%台前半まで低下しました。
日銀は、政策金利を据え置き、年0～0．1%程度を維持しました。
無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

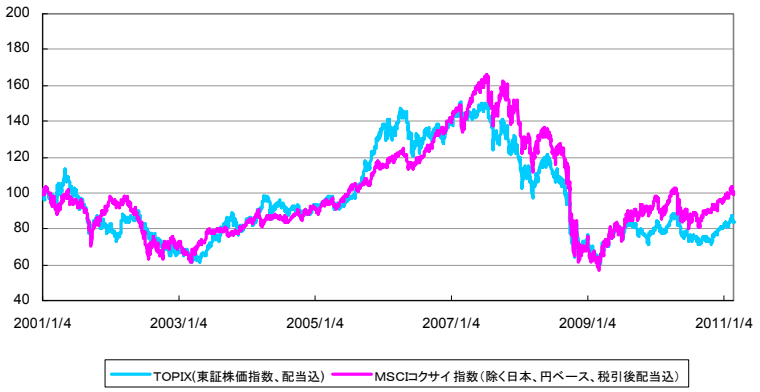
【外国債券市場】

米国債券市場は、1月ISM製造業景況指数が予想を上回ったことや1月失業率が低下したことなどを受けて、景気回復期待などから金利は上昇して始まりました。その後、中東・北アフリカ政情不安など地政学リスクの高まりを受けて、低下しました。米10年国債利回りは、月末は3．427%となりました（前月末は3．370%）。
欧州債券市場は、金利は景気回復期待などを受けて上昇した後、米国債の影響や中東・北アフリカの政情不安などから低下し、独10年国債利回りは、月末には3．170%となりました（前月末は3．155%）。
FRB（米連邦準備制度理事会）は、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．0～0．25%を維持しました。ECB（欧州中央銀行）は政策金利を据え置き、年1．0%を維持しました。

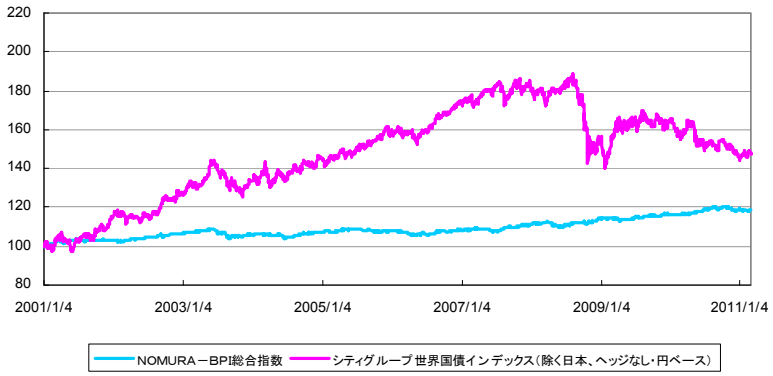
【外国為替市場】

米ドル／円相場は、上旬は、米景気回復期待などから円安となりました。その後は、中東・北アフリカの政情不安を背景に相対的に安全資産とされる日本円への「質への逃避」や米国長期金利の低下などから円高となりました。円は対ドルで前月末比0円42銭（＋0．51%）円高ドル安の1ドル＝81円71銭となりました。
ユーロ／円相場は、ECBによる利上げ観測、欧州の財政懸念や中東・北アフリカ情勢を受けたリスク回避の動きが交錯し、111円前半から113円後半の狭いレンジ内で推移しました。円は対ユーロで前月末比0円53銭（▲0．47%）円安ユーロ高の1ユーロ＝112円14銭となりました。

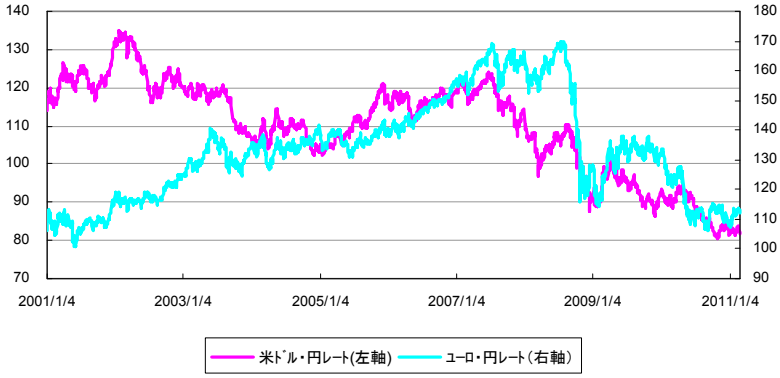
日本と外国の株式市場の推移
＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



日本と外国の債券市場の推移
＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート （2011年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式 30% 債券 70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
ライフ・ソリューション50	株式 50% 債券 50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
ライフ・ソリューション70	株式 70% 債券 30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
日本株式	日本株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
世界株式	世界株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）	アライアンス・バーンスタイン株式会社
世界債券	世界債券 100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン — グローバル・ボンド・ポートフォリオ（クラスI受益証券）	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
マネープール	短期金融資産 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先： カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

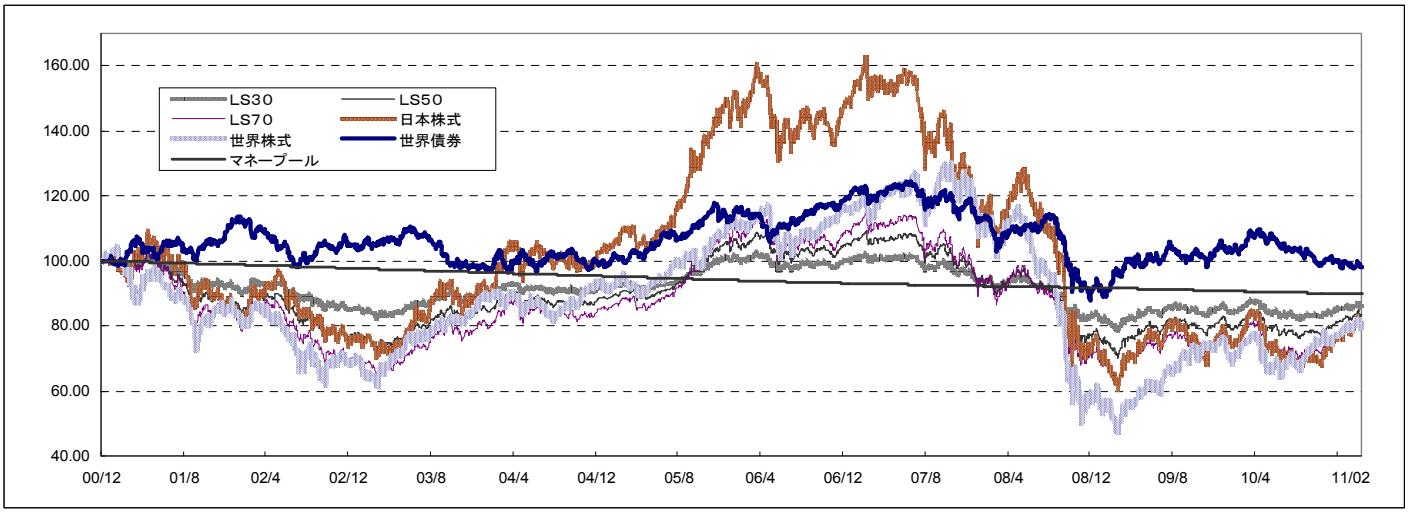
変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート　(2011年2月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況　[2011年2月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2011年2月末	86.26	過去1ヵ月	1.20
2011年1月末	85.24	過去3ヵ月	3.18
2010年12月末	85.04	過去6ヵ月	5.24
2010年11月末	83.60	過去1年	2.35
2010年10月末	82.79	過去3年	▲ 8.19
2010年9月末	83.12	設定来	▲ 13.74

ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2011年2月末	83.42	過去1ヵ月	2.10
2011年1月末	81.70	過去3ヵ月	5.58
2010年12月末	81.28	過去6ヵ月	9.57
2010年11月末	79.00	過去1年	5.05
2010年10月末	77.48	過去3年	▲ 11.87
2010年9月末	77.95	設定来	▲ 16.58

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2011年2月末	79.47	過去1ヵ月	2.97
2011年1月末	77.18	過去3ヵ月	7.82
2010年12月末	76.59	過去6ヵ月	13.85
2010年11月末	73.71	過去1年	7.22
2010年10月末	71.63	過去3年	▲ 15.61
2010年9月末	72.19	設定来	▲ 20.53

日本株式			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2011年2月末	80.28	過去1ヵ月	4.27
2011年1月末	76.99	過去3ヵ月	11.01
2010年12月末	75.87	過去6ヵ月	21.10
2010年11月末	72.32	過去1年	7.86
2010年10月末	68.19	過去3年	▲ 31.36
2010年9月末	69.68	設定来	▲ 19.71

世界株式			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2011年2月末	80.72	過去1ヵ月	3.35
2011年1月末	78.11	過去3ヵ月	8.69
2010年12月末	78.11	過去6ヵ月	21.89
2010年11月末	74.27	過去1年	14.30
2010年10月末	75.24	過去3年	▲ 28.30
2010年9月末	73.06	設定来	▲ 19.27

世界債券			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2011年2月末	98.01	過去1ヵ月	▲ 0.54
2011年1月末	98.54	過去3ヵ月	▲ 3.63
2010年12月末	97.64	過去6ヵ月	▲ 4.97
2010年11月末	101.71	過去1年	▲ 4.97
2010年10月末	98.63	過去3年	▲ 11.47
2010年9月末	102.41	設定来	▲ 1.98

マネープール			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2011年2月末	89.74	過去1ヵ月	▲ 0.07
2011年1月末	89.80	過去3ヵ月	▲ 0.23
2010年12月末	89.88	過去6ヵ月	▲ 0.49
2010年11月末	89.95	過去1年	▲ 0.98
2010年10月末	90.04	過去3年	▲ 2.73
2010年9月末	90.12	設定来	▲ 10.26

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30		ライフ・ソリューション50		ライフ・ソリューション70	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	15,179	0.4	39,506	0.6	30,447	0.8
その他有価証券	3,555,390	99.6	6,769,295	99.4	3,797,227	99.2
合計	3,570,569	100.0	6,808,801	100.0	3,827,675	100.0

項目	日本株式		世界株式		世界債券		マネープール	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	37,891	1.1	35,620	1.5	29,216	1.2	76,041	15.2
その他有価証券	3,475,325	98.9	2,351,000	98.5	2,366,023	98.8	422,744	84.8
合計	3,513,217	100.0	2,386,621	100.0	2,395,240	100.0	498,785	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託並びに外国投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

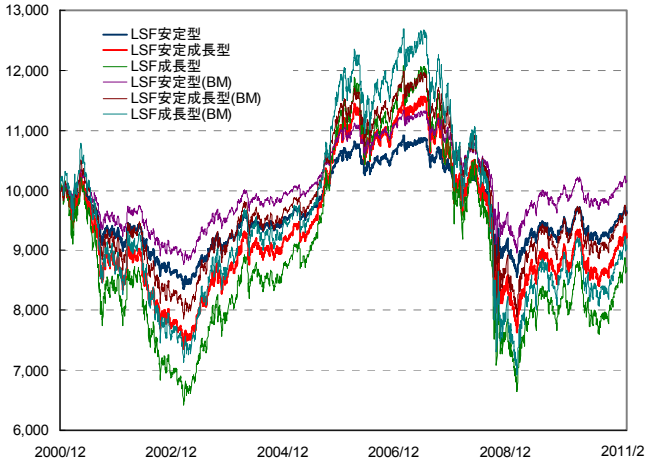
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2011年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション30・50・70　［ 2011年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　LS30 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）〈適格機関投資家私募〉
LS50 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）〈適格機関投資家私募〉
LS70 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）〈適格機関投資家私募〉

【委託会社】　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉
に投資します。

＊ LS:　特別勘定　ライフ・ソリューション
＊ LSF:　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	1.30%	3.51%	5.93%	3.62%	▲4.91%	▲3.52%
BM	1.15%	2.97%	5.07%	3.01%	▲4.14%	1.77%
差	0.15%	0.53%	0.86%	0.61%	▲0.76%	▲5.29%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	2.20%	5.94%	10.32%	6.38%	▲8.82%	▲7.24%
BM	1.97%	5.03%	8.77%	4.69%	▲9.08%	▲3.58%
差	0.23%	0.91%	1.55%	1.69%	0.27%	▲3.66%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	3.11%	8.23%	14.69%	8.61%	▲12.77%	▲12.79%
BM	2.78%	7.11%	12.60%	6.37%	▲14.35%	▲9.14%
差	0.33%	1.11%	2.09%	2.24%	1.58%	▲3.65%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	LSF安定型	LSF安定成長型	LSF成長型
東証株価指数（TOPIX）*1	24.00%	40.00%	55.00%
S&P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%	5.00%	7.50%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%	5.00%	7.50%
日興債券パフォーマンス・インデックス（総合*4、中期3年以上7年未満）	30.00%	25.00%	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	40.00%	25.00%	12.50%

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	26.71%
米国株式	3.00%	3.85%
欧州株式	3.00%	2.97%
日本債券	30.00%	28.46%
短期金融資産等	40.00%	38.00%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	44.39%
米国株式	5.00%	6.17%
欧州株式	5.00%	4.38%
日本債券	25.00%	23.34%
短期金融資産等	25.00%	21.72%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	60.16%
米国株式	7.50%	9.03%
欧州株式	7.50%	6.49%
日本債券	17.50%	15.48%
短期金融資産等	12.50%	8.84%
合計	100.00%	100.00%

※ 各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、LSF30（安定型）、LSF50（安定成長型）、LSF70（成長型）それぞれ、前月末比＋1．30%、＋2．20%、＋3．11%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、前月末比＋1．15%、＋1．97%、＋2．78%となり、ベンチマーク対比＋0．15%、＋0．23%、＋0．33%となりました。

当月の当投資信託は、資産配分効果では債券に対して米国株と日本株を多めに保有したことがプラスに寄与し、また銘柄選択も奏功しました。

2011年1月の米ISM製造業景況指数は60．8に上昇し、過去7年で最も高い水準まで上昇しました。また、シカゴ購買部協会景気指数も71．2と上昇し、米国は2011年の年初から経済指標を通して力強い成長が見られます。しかしながら、今後特に雇用状況を注視する必要があると委託会社はみています。一方、建設業に対する見通しは、景気後退局面からまだ懸念すべき材料が残っているとみています。総合的に見て、2011年米国GDP成長率は3%程度であろうと委託会社は予想しています。

米国をはじめとして株式市場は株価評価の観点から依然割安感があり投資妙味があると委託会社はみており、当投資信託は、今後も株式への資産配分を基本資産配分に対して多めに持つ方針ですが、当面は、中東情勢の地政学的リスクや原油価格に対する不安から値動きの荒い展開も予想されるため注視してまいります。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

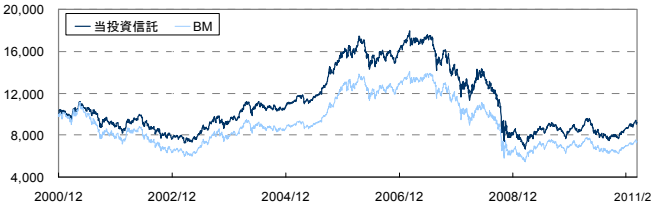
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2011年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　日本株式　［ 2011年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ･日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ･ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ･日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	4.44%	11.50%	22.20%	9.33%	▲29.55%	▲8.28%
BM	4.53%	10.49%	18.22%	6.39%	▲28.17%	▲26.22%
差	▲0.09%	1.01%	3.98%	2.94%	▲1.38%	17.94%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）*1です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	ﾏｻﾞｰファンド
1	輸送用機器	10.86%
2	電気機器	10.80%
3	卸売業	9.31%
4	情報・通信業	8.96%
5	陸運業	7.91%
6	銀行業	7.39%
7	電気・ガス業	6.46%
8	化学	6.35%
9	その他業種	31.55%
10	現金等	0.40%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	ﾏｻﾞｰファンド
1	東京証券取引所第一部	97.80%
2	大阪証券取引所第一部	1.15%
3	ジャスダック証券取引所	0.37%
4	東京証券取引所第二部	0.22%
5	大阪証券取引所第二部	0.03%
6	名古屋証券取引所第一部	0.01%
7	名古屋証券取引所第二部	0.02%
8	現金等	0.40%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	ﾏｻﾞｰファンド
1	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.74%
2	東京電力	電気・ガス業	3.29%
3	日本電信電話	情報・通信業	3.23%
4	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	2.98%
5	日産自動車	輸送用機器	2.85%
6	日立製作所	電気機器	2.80%
7	日本たばこ産業	食料品	2.75%
8	東日本旅客鉄道	陸運業	2.54%
9	三菱電機	電気機器	2.45%
10	KDDI	情報・通信業	2.44%
合計			29.07%
組入銘柄数			185銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋4．44%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前月末比＋4．53%となりました。
当月の日本株式市場は純資産利回りが高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託はこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、下落した総合商社および輸送を多めに保有していたことはマイナスに寄与しましたが、上昇した移動体通信および飲料・タバコを多めに保有していたことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇したKDDI（9433）を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇したトヨタ自動車（7203）およびソフトバンク（9984）を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。
当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

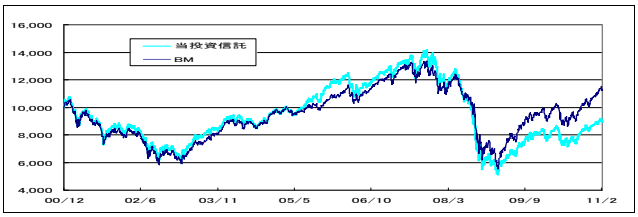
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2011年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界株式　［ 2011年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	3.49%	9.15%	22.99%	16.01%	▲26.30%	▲9.44%
BM	3.20%	12.13%	24.95%	22.21%	▲3.62%	13.24%
差	0.28%	▲2.99%	▲1.95%	▲6.20%	▲22.68%	▲22.68%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス[*6]
　（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国／地域別構成比率

	国名	マザーファンド
1	アメリカ	47.20%
2	イギリス	11.03%
3	日本	5.14%
4	ブラジル	4.49%
5	ドイツ	3.15%
6	アイルランド	2.83%
7	フランス	2.34%
8	カナダ	2.18%
9	その他の国／地域	18.34%
10	現金等	3.30%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	情報技術	21.24%
2	金融	15.85%
3	一般消費財・サービス	12.72%
4	資本財・サービス	12.01%
5	素材	10.00%
6	エネルギー	9.69%
7	ヘルスケア	8.13%
8	生活必需品	6.10%
9	その他のセクター	0.97%
10	現金等	3.30%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1	アップル	アメリカ	情報技術	パソコン	2.87%
2	グーグル	アメリカ	情報技術	インターネット	1.58%
3	リオ・ティント	イギリス	素材	鉱業	1.58%
4	オラクル	アメリカ	情報技術	ソフトウェア	1.58%
5	IBM	アメリカ	情報技術	コンピューター	1.57%
6	スタンダード・チャーターード	イギリス	金融	銀行	1.42%
7	クアルコム	アメリカ	情報技術	通信システム	1.41%
8	ペトロレオ・ブラジレイロ ADR	ブラジル	エネルギー	石油	1.37%
9	ヴァーレ	ブラジル	素材	鉱業	1.36%
10	サンコア・エナジー	カナダ	エネルギー	総合エネルギー会社	1.34%
合計					16.08%
組入銘柄数					128銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

　投資信託の騰落率は前月末比＋3．49%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）の騰落率は前月末比＋3．20%となりました。（以下、委託会社独自のセクター別で記載。）
　ベンチマークとの比較では、セクター配分はマイナスとなったものの、銘柄選択はプラスに寄与しました。セクター配分では、情報・通信テクノロジー・セクターを高めに組入れたことなどがマイナスとなりました。銘柄選択では、主に情報・通信テクノロジー・セクターにおける選択がプラスに寄与しました。
　当投資信託では厳選された高クオリティのグロース銘柄を多く組入れています。そうした銘柄はバリュエーションも非常に魅力的であるため、株価上昇余地が大きいと見ています。今後も、アナリストによる徹底した企業分析を通じて、成長が見込まれ、かつ株価水準が妥当な優良銘柄を選別する方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

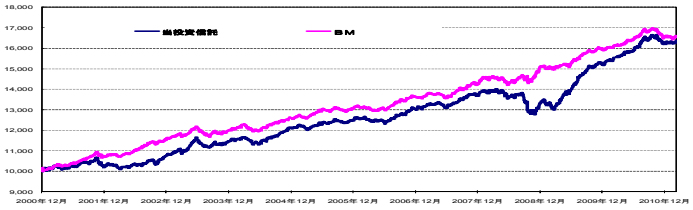
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2011年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界債券　［ 2011年2月 末日現在 ］

■当投資信託の純資産価格の推移



※　2000年12月21日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アライアンス・バーンスタイン― グローバル・ボンド・ポートフォリオ　（クラスI受益証券）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
【運用方針】

主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70%以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。

※　当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。

■当投資信託の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.17%	▲0.24%	▲1.20%	5.22%	17.15%	114.93%
BM	0.18%	▲0.60%	▲1.97%	2.93%	13.71%	122.18%
差	▲0.01%	0.36%	0.77%	2.29%	3.44%	▲7.25%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（1996年11月20日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、バークレイズ・キャピタル・グローバル総合インデックス*7です。

■当投資信託の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○ 国別構成比率

	国名	投資信託
1	アメリカ	37.30%
2	イギリス	10.09%
3	フランス	8.67%
4	カナダ	8.13%
5	オランダ	4.83%
6	スウェーデン	4.39%
7	ベルギー	3.69%
8	オーストラリア	2.75%
9	その他	18.49%
10	現金等	1.66%
合計		100.00%

○ 格付別構成比率

格付	投資信託
AAA	46.04%
AA	8.96%
A	26.76%
BBB	17.41%
BB	0.83%
合計	100.00%

注）現金等はAAAに含まれます。
格付基準：
※　ムーディーズ社または
　スタンダード＆プアーズ（S&P）社のうち、
　いずれか高いほうを採用しています。

○ 債券種別資産構成比率

	債券種別	投資信託
1	投資適格社債	38.50%
2	国債	37.30%
3	政府関連債	4.07%
4	モーゲージ・パス・スルー証券	3.72%
5	インフレ連動債	3.59%
6	商業用不動産担保証券	3.21%
7	カバード・ボンド	2.85%
8	国際機関債	1.42%
9	その他	3.68%
10	現金等	1.66%
合計		100.00%

○ 組入上位10債券種類

	銘柄	国名	格付 ムーディーズ	格付 S&P	投資信託
1	アメリカ国債(2/15/15-8/15/19)	アメリカ	Aaa	AAA	9.64%
2	カナダ国債(3/15/14-6/1/15)	カナダ	Aaa	AAA	6.46%
3	フランス国債(12/26/12-10/25/19)	フランス	Aaa	AAA	6.36%
4	ベルギー国債(3/28/15)	ベルギー	Aa1	AA+	3.69%
5	ファニーメイ(9/1/29-6/1/38)	アメリカ	Aaa	AAA	3.49%
6	イギリスインフレ連動債(8/16/13)	イギリス	Aaa	AAA	2.56%
7	ニュージーランド国債(12/15/17-5/15/21)	ニュージーランド	Aaa	AAA	2.17%
8	南アフリカ国債(1/15/14-9/15/17)	南アフリカ	A3	A	1.54%
9	日本国債(9/20/12-3/20/15)	日本	Aa2	AA-	1.52%
10	スウェーデン国債(7/15/12-9/15/14)	スウェーデン	Aaa	AAA	1.51%
合計					38.94%

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ 通貨別構成比率

	債券種別	投資信託
1	アメリカドル	98.70%
2	その他	1.30%
合計		100.00%

○ ポートフォリオの状況

	投資信託
平均デュレーション	3.52

※　「平均デュレーション」とは、当ファンドの組入銘柄のデュレーションを平均したものです。
　債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、
　金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

当投資信託の騰落率は前月末比＋0．17%、一方、ベンチマークであるバークレイズ・キャピタル・グローバル総合インデックスは前月末比＋0．18%となりました。
2月は、米国、英国、ユーロ圏などのイールド・カーブ戦略（短期債、長期債の配分戦略）がパフォーマンスの最大のマイナス要因となりました。 セクター配分はプラス寄与となり、投資適格社債の比率を高めにしたことなどが有効でした。国別配分では、日本の比率を低め、英国の比率を高めにしたことなどがプラスに寄与しました。
銘柄選択では、ユーロ圏周辺国ソブリン債の比率を低めにしたことや、投資適格社債と商業用不動産ローン担保証券（CMBS）の銘柄選択がリターンに寄与しました。通貨選択の影響は限定的でした。
当投資信託は、金利上昇環境において資本を保全するため、ここ数ヶ月で金利のデュレーションを短めにしています。日本の債券については、ヘッジベースでも利回り面の魅力が乏しいため、ほとんど保有をしておりません。投資適格社債に関しては国債に比べ、より魅力的な短期債を中心に保有比率を高めとしています。ユーロ圏周辺国については、ソブリン債と社債を最小限保有しています。また、原油価格高騰を踏まえ、パフォーマンスが良好なインフレ連動債の保有率を高めにしました。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

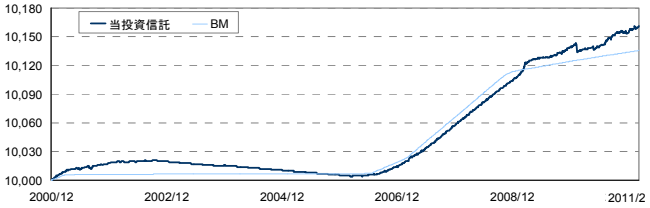
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
　Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2011年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　マネープール　［ 2011年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.02%	0.07%	0.12%	0.26%	0.93%	1.61%
BM	0.01%	0.02%	0.04%	0.09%	0.60%	1.35%
差	0.01%	0.05%	0.07%	0.16%	0.34%	0.26%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　資産構成

		修正デュレーション	マザーファンド
公社債		0.63年	57.23%
	国債	1.57年	20.38%
	地方債	0.00年	0.00%
	特殊債・財投債	0.00年	0.00%
	金融債	0.00年	0.00%
	社債等	0.12年	36.85%
	その他	0.00年	0.00%
短期資産等		0.70年	42.77%
	CD		0.00%
	CP		0.00%
	TB／FB		41.90%
	コールローン		0.87%
	その他		0.00%
合計		0.66年	100.00%

※「TB／FB」には、残存期間が1年未満の国債を含みます。
※「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○　公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	20.27%
AA	76.35%
A	3.38%
BBB	0.00%
BB以下（無格付含）	0.00%
合計	100.00%

○　短期資産等の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
P-1	0.00%
P-2	0.00%
P-3	0.00%
無格付	0.00%
合計	0.00%

格付基準　※ 海外格付機関の格付を優先します。※コールローンは格付別構成比率には含めていません。
※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。
※ FB等国債同等の無格付短期資産においては短期格付をP-1格とします。
※ TB/FBに分類された1年未満の国債については「○公社債の格付別構成比率」に含めています。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋0．02%、一方、ベンチマークである日本円無担保コールオーバーナイト物レートは前月末比＋0．01%となりました。2010年10月～12月期の日本の実質GDPは前期比年率が▲1．1%となるなど日本経済の収縮がみられますが予想を上回りました。また、中国の春節休暇に伴うアジアへの輸出の鈍化などを背景に1月の日本の輸出総額前年比は22ヶ月ぶりの貿易赤字となりました。1月のコアCPIは若干予想を上回りました。2年国債利回りは0．045%上昇の0．25%となりました。当月は経済指標が改善し株式市場の上昇などがみられた一方で、中東情勢の混乱や原油価格の高騰により、「質への逃避」から債券が買われるなど、強弱まちまちの展開となりました。当月の当投資信託は高格付社債への投資を多めにしていたことが奏功しました。また、追加資金を流動性が潤沢な国債への投資にあてました。当投資信託は国債への投資で流動性を確保し、質の高い社債への投資機会を狙いながら安定した運用と利回りの向上をめざします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S＆P500種株価指数」とは、スタンダード＆プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード＆プアーズ社に帰属しています。S＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S＆P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（ユーロベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス（総合）」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利は日興コーディアル証券株式会社に帰属します。また、日興コーディアル証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

＊5「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。
このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。

＊6「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc. が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）は、MSCIワールド・インデックス（米ドルベース）をもとに、為替ヘッジにかかる費用相当分を考慮して委託会社が円ヘッジベースに換算したものです。

＊7「バークレイズ・キャピタル・グローバル総合インデックス」とは、バークレイズ・バンク・ピーエルシーの投資銀行部門であるバークレイズ・キャピタルが開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズ・キャピタルに帰属します。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額個人年金保険です。
特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、
株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。
特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

＜年金支払開始日前＞

●特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用（増額費用）	特別勘定繰入前	保険料の**2．0%**	保険料から契約初期費用として2．0%が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。（増額費用も同じ）
保険契約管理費（積立金比例額）	毎日	特別勘定の積立金総額に対して**年率1．2%***	当社の経費に充当されます。（基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。）

*　毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1．2%の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費（件数比例額）	月単位の契約応当日	毎月　**100円**	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目**1,500円** 2回目以降は1回につき**2,300円**(*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は**無料** 2回目からは1回につき**800円**(*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日および貸付金の返済時	貸付金額の年利**1．2%**	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除	解約時	積立金額の**8．0%～0．8%**	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の**8．0%～0．8%**	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

※　貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

※　将来、上記の内容が変更になることがあります。

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 年率0．945%程度(税抜0．900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 年率1．050%程度(税抜1．000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 年率1．155%程度(税抜1．100%程度)	
		日本株式 年率0．840%程度(税抜0．800%程度)	
		世界株式 年率0．8925%程度(税抜0．850%程度)	
		世界債券 年率0．650%程度 *1	
		マネープール 年率0．034125%～年率0．483000%程度 (税抜0．0325%～0．4600%程度) *2	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。
信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。
また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。
これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。
管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。
その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがありますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

＜年金支払開始日以後＞

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の 契約応当日	支払年金額の1．0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。